

第 28 節 乳腺外科研修〔選択科向け研修〕

一般目標

乳腺外科領域における疾患を抱える患者を診察し、外来、病室、手術（再建を含む）など、全般を理解する。

具体目標

- ① 乳腺の生理とホルモン環境：性周期と乳腺、妊娠・授乳期乳腺、加齢、肥満、ホルモン補充療法（HRT）、ピルなどによる乳腺の変化に関する知識を習得する。
- ② 解剖：正常乳房の組織像、乳房腋窩領域の解剖を理解する。
- ③ 問診・病歴・視触診：乳腺疾患患者の問診・視触診を行うことができる。
- ④ 画像診断：下記の検査の適応を決定し、読影し、画像評価および読影（カテゴリー分類など）ができる。また、画像診断の各種検査法の特性を理解して検査計画を作り、総合診断ができる。
- ⑤ 病理：良性・悪性の乳腺疾患のマクロ・ミクロの病理を理解し、画像診断との対比ができる。
- ⑥ 乳癌卵巣癌遺伝子、血縁者の乳がんを理解する

実臨床研修

- ① 乳腺の良性疾患および悪性疾患に対して問診・視触診・画像診断などの結果に基づいた適切な治療方針を決定することができる。
- ② 乳癌に対する外科治療、放射線治療、化学療法および内分泌療法の役割を理解し、それぞれの適応を決定することができる。乳癌に対する緩和医療の内容を理解し、適応を決定することができる。
- ③ 乳癌根治術後リハビリテーションの意義を理解する。
- ④ 施設内の病理を含む各専門領域が集まる乳腺カンファレンスに出席し、それぞれの専門的立場から意見を述べるができる。施設内乳腺カンファレンスを司会し、積極的に討論に参加する。
- ⑤ 乳腺に関する手術に参加し、乳腺手術を理解する。
- ⑥ 乳腺手術後の管理を理解し外来との連携を図る

初期救急対応、当直対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

当直は、指導医の指導の下に、外来や病棟での救急対応を行う。

研修評価

- ・症例毎の問題点、治療内容を上級医師と討議、その理解度をチェックする。
- ・学会活動の参加、患者への接し方も評価項目としている。